

## 第2期 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略 R6年度の取り組みと5年間の総括について

農 業	1
林 業	2
水産業	3
商 業	4
工 業	5
観 光	6
分野を超えた産業間の連携	7
移住・定住促進のための体制強化	8
若い世代の結婚出産子育て	9
協働のまちづくり推進、災害に強いまちづくり	10
交流人口拡大	11

**基本目標1：魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用と稼ぐ産業を創出する**

基本的方向：(1) 足腰を強め「地力」を高める

新規農業者数 (人)	基準値 (H30)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終
実績値	9	10	7	11	8	9	45
目標値	-	10	10	10	10	10	50
評価(A/B/C/-)	-	A	B	A	B	B	B

**R6年度の取り組み内容**

新規就農者数は、目標値 10 人に対し、R6 年実績（集計上 R5.4.1～R6.3.31 に就農した者）は 9 人と達成は出来なかった。  
就農相談会等、対面式のイベントが再開されたことも影響し、新規就農相談件数は県内でも多い水準を維持しており、相談内容は親元就農や U ターンに関する相談が多くなっている。新規就農者の状況を把握するため振興センターや JA と連携し、サポート体制の充実を図っているが、ハウスの資材や燃料費の高騰等から、既存農家も含め、経営上、非常に厳しい状況が続いている。

**(1) 農業の振興**

**農業生産基盤・防災対策の充実**

老朽化した頭首工他の整備を行う農地耕作条件改善事業を実施。  
土居・徳王子地区・白岩地区は計画通り水路改修工事を実施し、土居・徳王子地区については工事が完了した。  
災害時の重油タンク転倒による土壌汚染等の防止を行う重油流出防止付燃料タンク整備事業を実施。  
目標値 20 箇所に対し実績は 3 箇所となった。

**経営改善、担い手対策の促進**

新規就農者や規模拡大農家に対して園芸用ハウス建設等の助成を行う「園芸用ハウス整備事業」は 13 件の目標に対し 6 件（高度化 2 件・流動化 4 件・災害復旧 0 件）を実施。  
ハウスの資材価格が高騰しており、自己負担額が多くなったこと等が原因で申請数が減少している一方、中古ハウスの修繕又は移設による流動化区分の相談が増加している。  
環境制御技術高度化事業は、R5 年度から「園芸用ハウス等リノベーション事業」に名称変更。  
25 件の目標に対し実施は 11 件。県の交付決定を受けていることが要件となるため、事前周知が重要になる。  
農業担い手育成センターや先進農家で研修を受ける者に対して補助金を交付する「新規就農者総合対策事業（就農準備資金）」は目標値 1 人に対し、実績として 1 人が研修を開始した。  
関係機関（市・中央東農業振興センター、JA 高知県香美地区）が連携し、新規就農希望者への相談対応を行っているが、要件を満たさない方や要件を満たしていると考えられる場合でも、研修受入できる農家がないという課題もある。  
経営開始直後の経営の不安定な就農初期段階の青年就農者に対し補助金を交付する「新規就農者総合対策事業（経営開始資金）」は目標値 4 人に対し、4 人（ニラ 2 名・ミカン 2 名）が活用。  
「農業後継者推進事業」は目標値 6 人に対し新規採択者は 4 人（ニラ 1 名、みかん 2 名、ナス 1 名）。

**中山間農地の保全と活用の促進**

人・農地プランが法定化され、R5 年度より地域にある農地や後継者の現状を把握し、未来に向けた地域のプランを設計するべく「地域計画の策定」に向けて取り組み、R6 年度で市内全 18 地区での計画策定を完了した。  
「中山間地域等直接支払事業」や「多面的機能直接支払事業」では、各協定の構成員の高齢化も影響し、対象面積の増加につながらなかったが、交付金の活用により農地や農業用水路等の保全と質的向上を図り、対象面積の維持に努めてきた。主な活動として、現地で草刈り等の維持管理を確認し、十分ではない地区には指導を行うことにより、農地の保全活動の推進を行ってきた。  
「有害鳥獣被害対策実施事業」は狩猟者と連携しながら、有害鳥獣の駆除を実施。目標（815 頭羽）に対し 704 頭羽を捕獲。  
被害や出没状況は年度によって傾向も変わっており、地元住民や狩猟者から情報収集を行いながら、状況把握に努め、駆除を実施している。

**5年間の総括（R2年度～R6年度）**

**総括**

農業分野の数値目標である「新規就農者数」の 5 年間の累計人数は、目標値 50 人に対し、45 人となっており、一定の担い手確保に繋がっている。

第 1 期（H27 年度～R 元年度）から取り組んできた就農に向けた各種イベントへの参加や移住関係の取り組みとの連携を進めてきたことに加え、国や県による支援、補助制度では対象とならない「親元就農者のための農業後継者推進事業」や H30 年度に整備した「実践型研修ハウスの運用」、「有害鳥獣対策を目的とした有害鳥獣駆除に対する報奨金制度」等、市独自の支援策に取り組んできたことで、新規就農者の確保に加え、既存農家の規模拡大や農地維持等にも貢献してきたと考える。

一方で、経営面や将来設計等の見通しがたてられず、就農に至らないケースもあることから、関係機関と連携、調整を図りながら、新規就農者の獲得につなげていく必要がある。また、人口減少に伴う労働力の確保が難しい現状を補うためのデジタル機器の導入に躊躇される方が多いことや高齢化や資材高騰、取引価格の向上が図られない等の理由から離農される方も増えつつある。

第 3 期（R7 年度～R9 年度）では、引き続き国や県の補助事業を積極的に活用し、担い手の確保に努めるとともに、農業における省力化や収益性の向上による経営改善や農地維持に取り組むことで持続可能な農業の推進へとつなげていく。

**R2年度からR6年度にかけて取り組まれた 新規・拡充事業（抜粋）**

**新型コロナウイルス感染症支援事業は除く**

(R2 年度)

- ・(NEW) 人・農地プランの実質化に向けた取り組みを開始

(R3 年度)

- ・-

(R4 年度)

- ・-

(R5 年度)

- ・(NEW) 人・農地プランの法定化により「地域計画」の策定に向けた取り組みを開始。

- ・(拡充) 耕作放棄地対策と特別栽培米の栽培に向けて、農業公社補助金を拡充。

(R6 年度)

- ・(NEW) 特別栽培米の栽培を開始

- ・(NEW) 大阪府泉大津市と「農業を通じた連携による持続可能なまちづくり」等、4 項目にわたる農業連携協定を締結
- ・(NEW) 東洋ライス(株)、高知食糧(株)との包括連携に関する協定を締結



## 第2期 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略 R6年度の取り組みと5年間の総括について（林業分野）

### 基本目標1：魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用と稼ぐ産業を創出する

#### 基本的方向：（1）足腰を強め「地力」を高める

間伐面積（ha）	基準値 (H30)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終
実績値	34.5	25.4	39.5	35.9	29.2	85.1	215.1
目標値	-	25	40	50	60	51	231
評価(A/B/C/-)	-	A	B	B	C	A	B

### R6年度の取り組み内容

間伐面積は、目標値51haに対し85.1haであり、目標値を大きく上回った。  
間伐面積は、保育間伐と搬出間伐の合計値であり、R6年度は、保育間伐を4.8ha（夜須町沢谷）、搬出間伐を80.3ha（香我美町奥西川・舞川・仲木屋）で実施した。  
また、間伐事業の実施に向けて境界を設定していく森林境界明確化委託事業は目標値40haに対し、51haと順調に進んでいる。  
香南市の子どもたちに山や木に対する知識・関心の向上から、将来の担い手につなげるための「木育事業」では、5つの項目を行っており、「市内保・幼・小・中学校で森林体験学習」や「香南市の森からの贈り物事業」等を実施。

### （2）林業の振興

#### 森林の多面的な利活用の推進

整備されていない森林の所有者に、自身が所有している森林の今後の管理について問う、森林環境と税を活用した森林管理意向調査では、夜須町細川の対象者66名のうち26名から、夜須町沢谷の対象者15名のうち7名から回答を得た。

森林管理意向調査を実施した森林について実施する「森林境界明確化委託事業」は、目標40haに対し51haと順調に取り組みが進められている。（夜須町沢谷で実施）

間伐事業（保育・搬出間伐）は実績値を市補助金の申請面積で集計しており、県補助申請が12月末時点の実績で取りまとめるため、R6年度の実績としては、R6年1月～12月の間伐実施面積となる。

12月末時点で間伐途中の森林があった場合は、途中までの実績で精算せずにその森林所有者の森林の間伐が全て完了してから、次年度に申請するため、実績が当初の目標値を満たせない場合がある。

R4年度までは香南市における香美森林組合の施業班は1班体制で実施していたが、R5～R6年度については3班体制で実施している。

#### 山や森林に親しむ機会の提供

市内の保育所や幼稚園、小・中学校の授業や行事での森林体験学習を実施する「木育イベント」の開催数、や香南市産材を使った「香南市の森からの贈り物事業」では、目標13回に対し16回実施。

木育イベントの開催：ファーストスプーン作りを2回開催（11/9AM・PM）

保・幼・小・中学校での森林体験学習の実施：11回開催

赤岡保育所「万華鏡づくり」（6/5）、吉川みどり保育所「竹コマ・ラワンの種飛ばし」（9/4）、

香我美おれんじ保育所「万華鏡づくり」（5/15）等を開催。

木育事業全般に係る周知活動：1回

香南ケーブルTVと連携して放送中の番組「木育Baby」等により周知を図っている。

香南市の森からの贈り物事業：1回 … 市内の乳児143名に木製の玩具を贈呈済。

市内の小・中学校に県産材を活用した木製玩具の贈呈：1回

各小学校からの要望を取りまとめ、木製備品を贈呈。（1校：香我美小学校）

### 5年間の総括（R2年度～R6年度）

#### 総括

林業分野の数値目標である「間伐面積」の5年間の累計面積は、目標値231haに対し、215.1haであった。  
新型コロナウイルス感染症の影響により、業務量が縮小されていた香美森林組合に対し、市独自の支援事業を実施したことにより、R2年度からR4年度は、間伐面積を伸ばすことができた。  
また、申請時期の関係により、R5年度に申請できていなかった分については、R6年度にて申請を行うことができたため、R6年度については、目標数値を大きく上回る結果となった。

森林環境の保全に向けた取り組み、意向調査、森林管理制度森林境界明確化を実施し、林業事業体と連携し、各所有者の意向を集積したのち、森林境界明確化にて境界確定に努め境界確定を行った林班等での間伐事業（保育間伐・搬出間伐）を実施し、森林の持つ公益的機能（水源かん養機能・減災機能・生態系保全機能等）の維持・増進に繋げることができた。

啓発・普及への取り組みでは、木育イベントや保・幼・小・中学校での森林体験学習の実施、香南市の森からの贈り物事業等を行い、小さな頃から木の良さを五感で感じてもらいながら、木に親しむ機会を設けることができた。

### R2年度からR6年度にかけて取り組まれた新規・拡充事業（抜粋）

#### 新型コロナウイルス感染症支援事業は除く

#### （R2年度）

- ・（NEW）香南市の森からの贈り物事業の開始。
- ・（拡充）子どもたちに向けて、森林の持つ機能や間伐が与える自然環境への影響等について、知識や関心を向上させるため、木育事業を強化。
- ・（NEW）森林環境と税を活用し、森林の所有者に向けて、自身が所有する森林の今後の管理について問う意向調査を開始。

#### （R3年度）

- ・（拡充）市内企業より高知県森と緑の会香南市支部へいただいた募金を活用し、市内保育所・幼稚園に香南市産材の木製備品を贈呈。

#### （R4年度）

- ・（拡充）R2年度に開始した意向調査の範囲を拡充。（夜須町細川地区・沢谷地区）
- ・（拡充）香南市産材の木製玩具等を子育て総合支援センターにこなん等へ贈呈。

#### （R5年度）

- ・（拡充）R2年度に開始した意向調査の範囲を野市町まで拡充するための調査を実施。
- ・（拡充）市内企業より高知県森と緑の会香南市支部へいただいた募金を活用し、市内小中学校に高知県産材の木製備品を贈呈。

#### （R6年度）

- ・（拡充）R5年度に開始した意向調査（夜須町細川地区・沢谷地区）の範囲を拡充。
- ・（拡充）香南市緊急間伐総合支援事業費補助金にて、人工造林及びシカ被害防護施設に対する補助メニューを追加。





## 基本目標1：魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用と稼ぐ産業を創出する

基本的方向：(1) 足腰を強め「地力」を高める

沿岸漁業 総生産額(百万円)	基準値 (H30)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終
実績値	358	290	254	253	241	315	1,353
目標値	-	285	290	295	300	305	1,475
評価(A/B/C/-)	-	A	B	B	B	A	B

### R6年度の取り組み内容

沿岸漁業総生産額は、305百万円に対し、実績値は315百万円であり、目標値を上回ることができた。R6年度はシラ及びイワシラスが好漁であり、特にシラについては、H24年度以降一番の水揚げ額であった。平均単価(kg)は、好不漁に左右されるが、R3年度から不漁が続いたため、平均単価が上昇したが、R6年度は好漁であり若干単価は減少したものの目標値は達成している。水産基盤施設の整備については概ね目標計画どおり遂行できており、漁船導入事業や担い手対策についても計画どおり取り組んでいる。担い手の確保については、R5年12月からR6年11月まで「雇用型漁業支援事業」を1名が活用している。

### (3) 水産業の振興

#### 生産基盤の充実

水産機能施設の老朽化に伴う改修工事を行っている。水産機能施設の整備については、目標値の3件を達成。[吉川漁港梯子設置、吉川漁船修理場シャッター改修、赤岡漁港グレーチング改修] 漁港施設の老朽化に伴い、計画的に漁港の保全・改修整備を行っている。R6年度末の改修整備率は95%と目標値86%を超えている。住吉漁港 西防波堤の工事は5箇所のうち5箇所目が完成。吉川漁港は-2.0m、-3.0m泊地の浚渫を実施。

#### 生産性の向上

漁船導入支援事業(漁船リースへの支援)については、令和5年度から繰越があり、目標1件に対して1件の実績があり支援を実施した。

#### 新規漁業就業者の確保(育成・支援)

市内漁業形態は1人での操業は厳しい状況であることから、雇用型・漁家子弟での確保を目指している。担い手の確保事業では、目標就業人数1人としていたが、雇用型・漁家子弟による支援は出来なかった。R5年度に作成した水産業紹介教材は、吉川町で開催された文化祭で放映され、啓発に繋がった。

### (4) 農業・水産業における加工・流通・販売体制の強化

#### 地産地消の推進

学校給食へのシラ加工品の納入回数は24回の目標に対し12回。(こうなん6回、赤岡・吉川6回) かちりじゃこの納入回数は60回の目標に対し63回。(こうなん49回、赤岡・吉川14回) R6年9月に赤岡吉川給食センターがこうなん給食センターへ統合したため、シラの納入回数は達成できなかったが、かちりじゃこは和え物等、複数の献立に使用できるため目標達成できた。

#### 農産物のブランド化の推進

青果としての秀品の出荷が一番であるが、必ず加工用に回る青果が発生するため、加工用の販売平均単価を上げていくことで、生産者の所得向上へとつなげていく。毎年、極早生～早生みかんの収穫時期が最盛期を迎える9月頃よりJAの露地みかん部会をはじめ、各地でフェアやイベントへの出店が始まる。過去に事業活用により生まれたジュースやバターのほか、様々な企業・団体による各種加工品もあり、加工用みかんの販売単価は少しずつだが上昇傾向にある。ニラ販売額は13億5,527万円(園芸年度R5.8月～R6.7月)であり目標値の10億円を達成。JA香美地区の出荷場の機能強化を図り、流通・販売の向上に向けて関係機関と引き続き取り組んでいく。

#### 水産業のブランド化の推進

高知県漁協手結支所の販売額については、5,500万円の目標に対し2,119万円となった。R3.7月に自動真空包装機を導入したことから冷凍フィレ等の出荷量は増加し、県内飲食店へ納入している仲卸業者への販売( )が拡大していたが、R6年度は好漁であり、1匹での販売が多かったため、フィレ加工での販売が減少し、販売額が伸びなかった。

シラのフィレ加工額：R2：294千円 R3：1,583千円 R4：3,500千円 R5：470千円 R6：550千円

## 5年間の総括 (R2年度～R6年度)

### 総括(水産業)

水産業分野の数値目標である「沿岸漁業総生産額」の5年間の累計金額は、目標値 1,475百万円に対し、1,353百万円と目標値には届かなかった。

漁港施設の長寿命化事業により生産基盤の維持に努め、水産施設は漁業関係者と協議し老朽化した施設の改修や修繕を実施し、円滑な漁業活動を維持することや漁船導入事業では、(一社)高知県漁業就業支援センター及び希望漁業者と連携し、事業実施に努めてきた。また、流通・販売の強化では、浜値の向上や給食納入回数の増加により、目標値を上回ることができた。

担い手の確保では、(一社)高知県漁業就業支援センターとの連携し、フェアへの参加を行うことで、就業希望者の獲得や支援をすることができた。

しかし、各施設は建設後約40年以上経過し、補修や改修等がさらに増加することが見込まれるため、費用増大が懸念されるため、今まで以上に漁業関係者と協議を進める必要がある。

流通・販売の強化では、省力化・省コスト化につながるデジタル化の推進が必要がある。また、香南市の漁業形態は単独での操業が難しいが、フェア等に参加し、漁家子弟や雇用型等の支援策を広く周知し、担い手の確保につなげていく。

### 総括(農業・水産業における加工・流通・販売体制の強化)

農業・水産業加工品の付加価値化向上に向け、高知県漁協手結支所販売事業への支援とともに、市民への地産地所の普及啓発活動や学校給食と連携した食育活動を実施し、香南市の農業、水産業における加工・流通・販売体制の強化を進め、香南市ブランドの展開や販路拡大に努めてきた。

地産地消の取り組みとして進めてきた学校給食への納入回数は、年々増加しており、香南市の子どもたちに香南市産の野菜や水産物のおいしさや品目の認知向上につなげられている。

また、農産品、水産品の単価向上に繋げる支援を行ったことで、ニラ販売額や加工品に回る山北みかんの販売平均単価は、年々向上させることができた。

## R2年度からR6年度にかけて取り組まれた新規・拡充事業(抜粋)

### 新型コロナウイルス感染症支援事業は除く

#### (R2年度)

- ・(NEW) 水産業制度資金の利子補給制度の策定。
- ・(NEW) 県 漁業就業支援センターと連携し、主要漁業種別の生活プランを作成し、就業希望者へ向けて発信を開始。

#### (R3年度)

- ・(NEW) 香南市漁船導入支援事業を創設。

#### (R4年度)

- ・(NEW) 香南市の水産業を学べる「水産業紹介教材」の作成。(R5年度に完成)

#### (R5年度)

- ・-

#### (R6年度)

- ・(NEW) 沿岸漁業施設投資事業費補助金を活用した魚探モニター設置事業を実施。



基本目標1：魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用と稼ぐ産業を創出する

基本的方向：(2) 新たな産業づくりに挑戦する

商業者数(事業所)	基準値 (H30)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終
実績値	813	778	777	768	770	753	753
目標値	-	813	773	768	763	758	758
評価(A/B/C/-)	-	B	B	A	A	B	B

新規事務系 企業数(企業)	基準値 (H30)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終
実績値	-	1	0	1	1	0	3
目標値	-	2	2	2	2	2	10
評価(A/B/C/-)	-	C	C	C	C	C	C

R6年度の取り組み内容

商業者数は、目標値758事業所に対し、実績値は753事業所であった。  
起業者も一定いるものの、廃業に至っている事業者も多く、今後も引き続き事業者の維持に向けた取り組みが必要。  
新規事務系企業数については、具体的な相談に至る案件はなかった(市内物件の内覧対応は1件実施)。

(1) 商工業の振興 (商業分野)

企業の育成・支援

香南市未来人材育成奨学金返還助成事業は、香我美町立地企業交流会及びものづくり会との合同交流会等で周知を行ったことにより、利用件数5件の目標に対し2件の新規認定に繋がった。  
事業案内としては、香南市広報R6.7月号へ掲載。  
また、次年度以降の支援内容拡充に向けて、制度設計の検討を進めてきた。  
担い手の確保に向けた事業承継の推進では、R6.7月に市広報誌で事業承継に関する情報発信を行った。

魅力ある商業地・商店街づくり

商店街等振興計画はR4.11月策定(R5.2月改定)した「香南市中心市街地活性化計画」のアクションプランに基づき各グループに分かれた打合せを実施。  
R6年度は、8～9月「スイーツスタンプラリー」の開催(前年度の反省点等を活かし、事業内容を一部拡充)、フジグラン野市とコラボした市内事業者のPR機会の創出(イベントと合わせた出店等)に繋げることができた。

空き店舗の活用

市役所窓口における創業相談は年間で10件程度あり、支援策の紹介等を適宜実施。商工会と連携しながら、空き店舗等対策事業費補助金の活用促進を図り、計3件の実績に繋がった。  
空き店舗情報の発信については、主に市内不動産会社が所有する物件情報の集約を行い、市HPへの掲載を実施。

5年間の総括 (R2年度～R6年度)

総括(商業)

商業分野の数値目標である「商業者数」の5年目の事業者数は、目標値758事業者に対し、753事業者と目標値を下回った。  
商工会や金融機関等の関係機関とも連携した、空き店舗等対策事業費補助金・創業支援利子補給金等に取り組むことで、新規創業者に対する支援や市内の空き店舗活用にも寄与することができた。  
既存事業者に対しては、保証料補給金事業や各種セミナーの開催、コロナ禍における各種給付金事業等、事業継続に繋がる支援策に取り組むことができた。  
また、地場産品販売促進事業(カタログギフト及びふるさと応援寄附金)において、新規事業者の参画、新商品や季節商品の開拓・充実による、新規顧客やリピーターの獲得を図ったほか、住宅リフォーム補助金の活用を推進したことで、事業者の売上拡大に繋げることができた。  
事業者数については、新型コロナウイルス感染症の5類移行等の影響もあり、特にR5年度中の創業者が多く、一定維持ができていたが、R6年度末には大幅な減となっている。今後も、空き店舗の有効活用も見据えた新規創業を推進していくのみでなく、既存事業者が廃業に至らないよう、商工会や事業承継・引継ぎ支援センター等の関係機関とも連携しながら、地域経済の活性化に繋がる取り組みを引き続き継続していく。

「新規事務系企業数」の5年目の企業数は、目標値10企業に対し、3企業と目標値を達成することは出来なかった。  
H30年に包括連携協定を締結したイシン株式会社と連携した取り組みを継続しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、働き方に変化が生じたこと等も影響している。

R2年度からR6年度にかけて取り組まれた新規・拡充事業(抜粋)

新型コロナウイルス感染症支援事業は除く

(R2年度)

- ・(NEW) 香南市内の空き店舗実態調査に着手。(R4年度まで)
- ・(拡充) 未来人材育成奨学金返還助成事業費補助金の補助対象者を新卒者のみから中途採用者(40歳未満)まで拡大。他分野も対象

(R3年度)

- ・(拡充) 香南空き店舗対策事業費補助金の対象業種を小売業、飲食業、サービス業から県信用保証協会の保証対象業種へ拡充。

(R4年度)

- ・(NEW) 香南市中心市街地活性化計画の策定。
- ・(NEW) 香南市企業魅力発信動画作成支援事業費補助金の創設。
- ・(拡充) 香南市空き店舗等対策事業費補助金の補助率(1/5 1/4)や補助額(上限:400千円 500千円)を拡充。
- ・(拡充) 「緊急融資保証料補給金事業」の制度内容を拡充(対象融資拡充)し、新たに「中小企業者等保証料補給金事業」として事業実施。



(R5年度)

- ・(NEW) 中心市街地活性化計画に紐づく事業開始とあわせて、「中心市街地活性化計画推進事業費補助金」を創設。
- 8月「スイーツスタンプラリー」、10月「香南かるたでゲット!」を開催。



基本目標1：魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用と稼ぐ産業を創出する

基本的方向：(2) 新たな産業づくりに挑戦する

製造品出荷額 (億円)	基準値 (H30)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終
実績値	401	344	380	295	387	-	R2～R5 1406
目標値	-	360	380	400	420	440	R2～R5 1,560
評価(A/B/C/-)	-	B	A	B	A	-	B

  

新規雇用者数(人)	基準値 (H30)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終
実績値	-	21	29	17	11	9	87
目標値	-	5	8	19	16	15	63
評価(A/B/C/-)	-	A	A	B	B	B	A

R6年度の取り組み内容

製造品出荷額は、目標値440億円に対し、R6年実績の経済構造実態調査結果は未だ公表されていないことから評価は示していない。  
 新規雇用者数については15人の目標に対して実績値が9人であった。  
 新規雇用者(目標値分)は確保できているものの、企業として必要としている雇用者数は年々増加傾向にあり、人口が減少している中、人材の確保が課題となっている。

(1) 商工業の振興(工業分野)

企業誘致の促進

香南市企業立地促進事業については、補助金申請のあった2社ともに新工場が完成し、R4年度に操業を開始している。  
 補助金交付要件となる新規地元雇用者が予定人数に達したため、R5年度に補助金を交付。

既存企業の育成・支援

- 商談会開催事業は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、予定どおり開催されており、5年間で目標50件に対し76件の開催。(商談件数:高知県内開催 35件、県外開催 41件)  
 生産性向上に繋がる先端設備等導入計画の認定数は、目標15件に対し8件。(変更認定2件)  
 当事業はR4年度で終了予定であったが、R5年度に新たな税制措置が施行されR6年度末まで延長。  
 香南市産業人材育成事業は、香我美町立地企業交流会及びものづくり会との合同交流会等で事業の周知活動を行ったことで、利用件数5件の目標に対し6件の申請に繋がった。  
 ○ 香南市未来人材育成奨励金返還助成事業は、利用件数5件の目標に対し2件の新規認定に繋がった。  
 次年度以降の支援拡充に向けて、制度設計・要綱改正の検討を進めてきた。

担い手の確保の促進

- ものづくり教育推進事業として、市内の小学4～6年生を対象に、夏休み期間中に市内企業の工場見学バスツアーを開催。(8/7開催、見学企業2社、14人の参加)(参考:R5年度の参加人数 29人)。  
 ○ 合同企業説明会では…県との合同企業説明会や城山高校への説明会開催等により、市内企業の人材確保に努めた。  
 県との合同企業説明会では直接、求職者や学生が企業の声を聞くことができ、企業にとっても企業紹介の良い場になったが、開催の時期が9月だったこともあり、学生の参加が少なかったため、今後は、夏休みの時や土日祝日での開催も視野に検討する必要がある。

5年間の総括 (R2年度～R6年度)

総括(工業)

工業分野の数値目標である「製造品出荷額」のR2年度からR5年度までの4年間の額は、目標値1,560億円に対し、1,406億円であった。  
 また、新規雇用者は、目標値63人に対し、実績は87人であった。

新型コロナウイルス感染症の影響により、不織布や包装等の需要が高まったことによる新ライン増設に伴う雇用増等から大きく数字を伸ばした。  
 一方で、製造品出荷額は、統計上のミスが原因であると考えられるが、R4年度が前年度比85億円と大幅に減少しており、その影響もあって、目標値は達成できていない。

企業誘致の促進では、新規工業団地整備事業を、隣接する宅地造成事業との一体的な計画で進めてきたことが、R3年度に宅地造成事業の中止が決定したことにより、工業団地のみ事業を進めることが困難となり、中止となった。

現時点では、新規で企業誘致ができる土地がない為、外部から企業を誘致する事は難しい状況。  
 しかし、R4年7月には、YAMAKIN(株)が本社機能を当市へ、また、同年11月には(株)ミツトヨが中土佐町大野見より当市に移転し操業を開始する等、新たな雇用の場や製造品出荷額の増加に繋がる明るい話題もあった。

商談会の開催については、新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度、3年度は対面制限があったが、以降は月5件以上のペースで開催できている。  
 また、年に2回、合同企業説明会を行い、香南市の立地企業における人材確保の支援に努め、香南市の企業を周知することができている。

市内の小学生に香南市の仕事について知ってもらう工場見学ツアーをR2年度より予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送っており、R4年度より開始した。次代を担う若者に向けた事業にも着手できている。

引き続き、合同説明会や工場見学ツアー等の取り組みに加え、企業を周知する取り組みを強化し、企業と学生や求職者等の架け橋になる取り組みを進めていく。

R2年度からR6年度にかけて取り組まれた新規・拡充事業(抜粋)

新型コロナウイルス感染症支援事業は除く

(R2年度)

- ・ (拡充) 新規工業団地の整備に向けた候補地の選定と適地調査の実施。(R3年度 中止決定)

(R3年度)

- ・ (NEW) 香南市技能功労者表彰制度の新設
- ・ (NEW) 香南市企業立地促進事業費補助金



(R4年度)

- ・ (NEW) 次代を担う若者(小中学生)に向けて、市内の工場見学やものづくり体験学習を開始。



基本目標1：魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用と稼ぐ産業を創出する

基本的方向：(2) 新たな産業づくりに挑戦する

観光施設入込客数(万人)	基準値(H30)	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	最終
実績値	105.9	90.7	96.2	102.2	101.8	98.3	489.2
目標値	-	107	110	114	117	121	569
評価(A/B/C/-)	-	B	B	B	B	B	B

県立のいち動物公園 月見山子どもの森 ヤ・シバーク 絵金蔵 天然色市場 やすらぎ市  
あぐりのさと 黒潮温泉 創造広場「アクトランド」 ⑩土佐カントリークラブ

R6年度の取り組み内容

観光施設入込客数は、目標値 121万に対し、R6年実績は98.3万人となり、達成は出来なかった。  
猛暑や南海トラフ地震臨時情報の発表により、屋外施設や沿岸部の施設で入込客数が減少したことが、全体に影響した。  
PR活動においては、SNSによるタイムリーな情報発信やHPに特設ページを作成することで、多くの方に情報を届けることができた。また、連続テレビ小説「あんばん」の放送開始や高知ものべがわエリア観光博「ものべすと」が開催し、関連する取り組みの強化を図り、当市における観光振興につなげた。

(2) 観光のまちの育成  
観光・交流の促進

- イベント集客数は、145,000人の目標に対し 81,442人の集客であった。  
土佐赤岡どろめ祭り 8,000人 土佐赤岡絵金祭り 12,000人 香南市みなこい港まつり 35,000人  
冬の夏祭り6,000人 手結盆踊り1,400人 西川花まつり 0人 かがみ花フェスタ(チューリップまつり) 11,224人  
のいちdeナイト7,818人 はR5年度で終了。 はR6年3月～4月にまたがる開催であるが、R6年度の実績として計上
- 自転車を通じた観光客誘致と、市のPR、出店や入込による市内飲食店等の収益増を図るための取組として、サイクルイベントを開催。  
サイクルイベント開催数20回(参加者数450人)の目標に10回(479人)となっている。  
悪天候によりイベントの開催ができなかったことやイベント企画が少なかったことが要因。
  - ・健康サイクリング 9/8、12/1 ・キックバイクで遊ぼう！10/19、3/23 ・シニアサイクル体験会 10/14
  - ・高規格道路開通記念イベント 2/23 ・今村選手トークショー 2/23 ・シクロクロスカップ 1/26
  - ・親子ライド 2/1 ・ものべすと周遊ライド 3/23

情報発信手段の効果的な活用

- 観光客や外国人の来訪が期待される日曜市と高知新港へのイベント出店による観光・特産物PRを実施し、日曜市に26回参加、ふるさと納税参画事業者に周知を進め、新規事業者の出店と販路拡大に取り組んだ。  
また、各イベントのPRや香南市内施設のパンフレット配布を行った。
- 観光協会のHPアクセス件数は、383,181件であり目標値350,000件を大きく上回った。  
イベントやキャンペーンに合わせた特設サイトを作成し、イベント情報を随時更新し、需要に応じた情報を発信することでアクセス数の増加に繋がった。また、SNSの情報発信からHPへ誘導することでより詳しい情報や関連する内容の提供に繋がっている。

(3) 観光拠点形成とネットワーク構築

資源の再発見(価値化・付加価値化)

- ・新たな観光拠点の形成として、醸造所とショップカフェの併設する「井上ワイナリー のいち醸造所」がR4年度にオープンし、香南市の新たな産業拠点施設として始動している。  
酒質やブランディングは成果が出ており、供給が追いついていないが、地域計画・県農地耕作条件改善事業により圃場を造成することになった。県内外の事業者と連携したイベントの開催や出店を行っている。一方で食品関連の売上が伸びておらず、観光施設として観光客の誘客に課題がある。

観光旅行会社(企画)とのタイアップによる複数観光ルートの構築

- 旅行商品造成数については12件の目標に対し78件である。  
物部川DMO協議会による営業の強化により様々な観光ルートが構築されており、令和7年度前期放送の連続テレビ小説「あんばん」の先取の旅行プラン造成が功を奏し、大幅に伸びた。観光地を見て回るだけのものから「体験」や「おもてなし」を重視したものに移行しつつあり、観光施設以外の観光協会等の協力が必要となってきた。

物部川流域3市での観光振興

- 主要観光施設入込客数(対象9施設)については944,000人の目標に対し679,152人であった。  
対象9施設[香南市...のいち動物公園、アクトランド、絵金蔵][南国市...西島園芸団地、歴史民俗資料館]  
[香南市...香南市立やなせたかし記念館、龍河洞、べっふ峡温泉、ザ・シックスダイアリーかほくホテルアンドリゾート]

5年間の総括 (R2年度～R6年度)

総括

観光分野の数値目標である「観光施設入込客数」の5年間の目標値 569万人に対し、489.2万人であった。  
SNSを活用したタイムリーな情報発信により、継続的に情報を受け取るフォロワー数を増やすことができています。  
また、HPの改修やSNSからの誘導、特設サイト作成により、観光情報やキャンペーン等をわかりやすく伝えることができています。  
しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、外国人観光客の渡航制限等があり、R2年度より観光施設入込客数が大幅に減少した。  
R4年度より回復が図られてきているが、猛暑や南海トラフ地震臨時情報の発表により、屋外施設や沿岸部の施設での入込客数が減少したことなどが影響したことからコロナ禍以前の推移には戻せていない。

ニーズに応じた情報発信を継続して行いながら、各観光施設や飲食店等がそれぞれの強みを活かして連携して取り組むことができる機会を確保し、周遊促進・滞在延長、リピーターの獲得につなげるための取り組みを検討してきたことから、具現化に向けて整理を進めていく。  
また、増加している外国人観光客やターゲット層とするファミリー層の受入体制の強化が必須であり、旅前、旅中の情報収集がしやすい環境や旅中における満足度向上のための研修や環境整備を行っていく。

R2年度からR6年度にかけて取り組まれた 新規・拡充事業(抜粋)

新型コロナウイルス感染症支援事業は除く

(R2年度)

- ・(NEW) 市や観光協会のHPの更新やSNSを活用した情報発信の強化を実施。
- ・(NEW) 高知県産ワインの醸造所の建設を支援。(県 産業振興計画 APと連携)
- ・(NEW) 関係人口の拡大を目的としたスポーツツーリズムの推進を強化。  
(地域おこし協力隊配置)
- ・(NEW) 観光ニーズや消費傾向の把握に向け、市内主要観光施設によるアンケート調査を開始。
- ・(NEW) 香南市自転車活用推進計画の策定。

(R3年度)

- ・(NEW) 道の駅やす 観光サイクリング事業の推進を開始。(レンタサイクル施設の整備等)
- ・(NEW) 子どもの遊び場確保事業(のいち動物公園バスポート配付)を開始。

(R4年度)

- ・(拡充) 観光アドバイザーによる観光施設との個別相談を実施。
- ・(NEW) 香南市レンタサイクルわくわくクーポンキャンペーン事業を開始。(R6年度まで)
- ・(NEW) 連続テレビ小説「らんまん」の放映に合わせた周遊花めぐりバスの運行を実施。  
(R5年度まで)

(R5年度)

- ・(NEW) 子どもの遊び場確保事業(ヤ・シバーク駐車場券配付)を開始。(R6年度まで)

(R6年度)

- ・(NEW) 連続テレビ小説「あんばん」の放映に合わせて開催する観光博覧会「ものべすと」に向けた取り組みを実施。(本博覧会：R7.3.29～R8.2.8まで)



## 基本目標1：魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用と稼ぐ産業を創出する

### 基本的方向：(3) 分野を超えた産業間の連携を強化する

#### R6年度の取り組み内容

##### (商工観光課)

観光施設入込客数は、目標値 121万に対し、R6年実績は98.3万人となり、達成は出来なかった。猛暑や南海トラフ地震臨時情報の発表により、屋外施設や沿岸部の施設で入込客数が減少したことが、全体に影響した。連続テレビ小説「あんぱん」の放送開始や高知ものべがわエリア観光博「ものべすと」が開幕し、関連する取り組みの強化を図り、当市における観光振興につなげた。

##### (香我美支所)

観光客入込客数は、岸本地区集落活動センターのチューリップまつりのR6年実績は11,224人(うち子ども 2,173人、招待券:295人、外国人:112人で前年比 約1,500人)であった。球根等の高騰も含め事業の見直しを行う。西川地区集落活動センター実施の西川花祭りは昨年度で終了し、現在は西川花畑としてアサギマダラの観察会や季節の花や茶を植え整備する等、新しい事業に取り組んでいる。いずれも高齢化や人員不足等の課題のある中、持続可能な地域づくりを話し合い楽しみながら交流できる活動を実施する。

#### (1) 6次産業化による新産業の創出と地産地消の徹底

##### 魅力ある新商品の開発・消費拡大

- ヤ・シの特産品売上金額については、56,285万円の目標に対し26,860万円である。
- テレビ取材、雑誌取材を受け、アイスパーやマヒマヒフライのPRを行った。
- 10月からは観光列車「志国土佐 時代の夜明けものがたり」にてアイスを販売。マリンフェスティバル(7月)、ヤ・シの秋祭り(11月)にも出店した。
- 外販の強化として、商談会への参加を継続し、R6年度は新たに中元ギフト4件、卸業者1件の取引を開始。大手の新規取引先が増えたことで、売上アップが図ることができた。
- インスタグラムにてランチや新メニューや週替わりランチを随時発信。アイスの店としての認知度は高まっているが、モーニングやランチ、カフェの実施への訴求ができていない課題がある。また、安定した人員体制を整え、仕入・製造・在庫等の管理体制の見直しを行う。

##### 地産地消の拠点(直販所)の機能拡充

- やすらぎ市、あぐりのさと、天然色市場の直販所での集客数は303,963人の目標に対し245,262人。やすらぎ市の集客数は、南海トラフ地震臨時情報の発表により、沿岸部の施設への入込客数の減少として影響を受けた。あぐりのさとでは売上が減少する6月から9月を土曜日だけの営業を継続、山北みかん等特産物の不作も影響したと思われ、微減となった。10/26は26周年祭を開催。天然色市場は、「天然色夜市」を開催。各種イベントや日曜市へ出店し、周知に取り組んでいる。また、高知高専の地域協働演習の授業の受け入れを行い、多世代へのPRなど集客に向けた取り組みを検討した。あんカヌレの開発など観光の取り組みと合わせた取り組みも実施している。

##### 地域内での創意工夫によるコミュニティビジネスの支援

- 岸本地区集落活動センターがR2年6月17日設立され、【ふれあいカフェ部】、【かがみ花フェスタ部】、【まちかつ部】、【農園部】の4つの部で活動を開始。以後、事業の進捗やメンバーの減少等から事業内容を精査し、【まちかつ部】と【農園部】の再編を図り、現在は、【ふれあいカフェ部】、【花フェスタ部】、【いえ・とち活用部】、【まなびの宿部】として事業を展開している。

- ふれあいカフェ部** ... 高齢者の見守り活動や健康増進を兼ねたサロン活動として、毎月第3日曜日に「ふれあいカフェ」を開催。手づくりのモーニングや炊き込みご飯等のほか、新任の集落支援員のつくるスイーツが好評で、利用者間で賑わっている。
- 花フェスタ部** ... 香南市はもとより、高知県内外から1万人以上が来園する「かがみ花フェスタチューリップまつり」を開催。年間を通して会場の維持・管理を行っている。また、来場記念品やイベントのPR、収益の拡大等を図るため、関連グッズの製作、販売等を行っている。
- いえ・とち活用部** ... アンケート調査による地域課題の1位が「空き地と空き家」となっている。空き地の草刈り事業のビジネス化や管理地でのイベントの開催、レンタル農園等を模索しているほか、空き家の活用希望者等との情報交換を図りながら、活用を進めている。
- まなびの宿部** ... まちかつ部からスタートした教室事業を更に発展させるため、事業を推進する部を新設し、手狭となった教室開催場所の拡大等を模索しながら進めている。

##### 観光活性化に向けたあらゆる産業との連携強化

- 「まるごと旨市」については、「香南市ギフトカタログ通年号2024-2025」を10,000部作成し配布。参加事業所数については48事業所の目標に対し50事業所・239品目であった。
- 各種イベントでの物販や、カタログ配送によるPRとあわせて、季節商品の取扱い等によるECサイトの内容拡充にも取り組むほか、ふるさと応援寄付金事業については、コンサル業者とも連携した返礼品の開発、事業者への個別サポート等に注力しており、返礼品数の大幅な増にも繋がっている。

## 5年間の総括 (R2年度～R6年度)

### 総括

#### 魅力ある新商品の開発・消費拡大

出店や販路拡大に向けた商談会への参加に取り組み、新たな販路を得た。また、新メニューの開発や週替わりランチ、SNSを活用した発信を行い、誘客促進を図った。人員体制に課題があり、作業の効率化や需要に応えられる体制が必要である。

#### 地産地消の拠点(直販所)の機能拡充

休業していた天然色市場(吉川町)がR3年度に新たな指定管理者のもと再開され、地場産品の直産市に加え、飲食ブースの営業も開始された。各イベントやこども食堂の取り組みを行っている。やすらぎ市では、新型コロナウイルス感染症や猛暑、南海トラフ地震臨時情報の発表により入込客数に影響を受けた。また、あぐりのさとでは、商品が少なく、集客が落ちる6～9月は土曜日のみ営業とする等して運営の見直しを行った。

#### 地域内での創意工夫によるコミュニティビジネスの支援

R2年度に、市内2カ所目となる岸本地区集落活動センターが開所。地域資源を生かした商品づくりやコミュニティの維持を目的として精力的に活動を実施。

#### 観光活性化に向けたあらゆる産業との連携強化

カタログ事業、ふるさと応援寄付金事業とともに、新規事業者の参画呼びかけや新商品、季節商品の充実を図ることで、新規顧客やリピーターの獲得に繋がり、地域事業者の売上にも寄与することができた。今後も、関係事業者へのサポート等に努め、地元事業者の売上増加に繋がるよう取り組んでいく。

## R2年度からR6年度にかけて取り組まれた 新規・拡充事業(抜粋)

### 新型コロナウイルス感染症支援事業は除く



#### (R2年度)

- ・ **(NEW)** 岸本地区集落活動センター設立。

#### (R3年度)

- ・ **(NEW)** かがみ花フェスタひまわりまつりの開催(岸本地区集落活動センター)
- ・ **(拡充)** 岸本地区集落活動センターによる特産品開発の着手。(芋ペースト)
- ・ **(拡充)** ギフトカタログウェブサイト(ECサイト)のリニューアルを実施。

#### (R4年度)

- ・ **(拡充)** 地域の景観維持と農産物の生産を目的に、耕作放棄地において、サツマイモの栽培を行い、イベント等で焼き芋や芋天、芋ペースト等の加工に活用。(岸本地区集落活動センター)

#### (R5年度)

- ・ **(拡充)** 集落活動センター推進事業費補助金を活用し、地域住民の交流やコミュニティ活動の活性化等の増加を図るため、「かっぱや」の厨房整備工事を実施。(岸本)
- ・ **(拡充)** 芋ペーストのパッケージ作成。

#### (R6年度)

- ・ **(拡充)** 集落活動センター推進事業費補助金を活用し、耕作放棄地を活用した農園及び駐車場に自動散水できる設備を整え散水作業の効率化や土埃対策を実施。また、「かっぱや」の付属棟取り壊しによる防犯及び景観対策としてフェンスを整備。(岸本地区集落活動センター)



基本目標2：香南市とのつながりを強化し、新しい人の流れをつくる

基本的方向：(1) 移住・定住促進のための体制を強化する

人口の社会増減(人)	基準値 (H30)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終
実績値	21	66	149	269	4	23	511
目標値	-	155	143	128	115	115	656
評価(A/B/C/-)	-	C	A	A	C	C	B

県外からの移住者(組)	基準値 (H30)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終
実績値	29	31	28	31	32	43	165
目標値	-	32	34	36	38	40	180
評価(A/B/C/-)	-	B	B	B	B	A	B

R6年度の取り組み内容

野市町では宅地化が進む等、社会増となる一方で他4町では社会減が進んでおり、R6年度の社会増減数は、目標値115人に対し23人に留まっている。  
県外からの移住者は43組(55人)が移住している。県への報告は従来とカウント方法が変更となったため156組185人  
6月・1月には東京・大阪で開催された県主催の移住相談会に参加するとともに、高知まんなか4市(高知市・南国市・香美市・香南市)合同の事業として、2月に移住体験ツアー、3月に南国市・香南市でオンライン移住相談会を実施した。  
また、関係人口の拡大を図るためワーキングホリデー事業を実施している。その他、移住後の定住につなげるためのアフターフォローとしての移住者交流会は11月に開催した。

(1) 移住・定住促進のための体制を強化する

「香南市を知って、好きになってもらう」魅力、多様な情報の発信

移住定住ガイドブック(こうなんdays)を窓口での移住相談者やオンラインで実施した移住イベント参加者に配布し、移住情報を発信。  
また、簡易に香南市移住に触れてもらうためポストカードにガイドブックやHPのQRコードを記載したものを4,000枚作成し、イベントや香南市へのふるさと納税者へ配った。  
○ 移住専門HP「香南住む」のアクセス数は、R6年度末で73,419回。  
○ 掲載情報のこまめな更新や他課や県と連携した情報発信、LINEの活用を実施。

居住環境の整備

住居リフォーム助成額については、目標1,500万円に対し補助金実績は92件、1,380.2万円の実績となっている。  
当補助金を含む、リフォームに係る総事業費は約1億3,439万円であり、住環境の整備及び市内経済の発展に寄与。  
住民への補助制度の周知が進み、利用率も高く、人気の高い取り組みとなっている。これは、R元年度より1世帯当たりの上限額(20万円)に至っていない場合、上限額までの申請(2回目申請)を可能にしたことが理由の一つ。  
○ 新築住宅取得支援事業については、R5.5月より開始され、香南市への移住及び定住希望者に対し、市内の人口減少地域での新築住宅の取得支援を行っている。R6年度は17件の実績となっている。

移住促進の取組強化

○ 空き家バンク新規登録数は、60棟(累)の目標に対し53棟(累)、空き家に関する地域からの情報により現地確認し、空き家の適正管理を所有者に啓発する際に、積極的に制度のチラシやパンフレット等で空き家バンク制度の周知を実施。  
地域からの情報だけでは空き家バンクに結びつきにくい物件が多いほか、相続登記が行われていなかったり、所有者の意向が確認できなかったり、新規登録件数は目標に達していない。  
香南市の移住サポーターとして活動することを目指している企業とともに、空き家バンクに結びつく物件の掘り起こしについての活動を連携して行った。現状ではバンク登録には至っていない。  
また、空き家バンクに登録してある物件のVR化を所有者の同意を得ながら進め、移住希望者が内見する前の情報として提供を始めている。  
○ H29.12月より香我美町西川地区に移住希望向けお試し滞在住宅を設置し、香南市の風土や気候・暮らしを体験してもらうことで、移住への不安を解消する短期滞在施設としての利用促進に取り組んでいる。  
移住希望者に利用(最長90日)してもらうことで、本市への移住体験施設としての役割を果たしている。 R6年度実績：2組  
○ R6年度は地域おこし協力隊2名が活動し、地域との交流を深め多方面で活躍しており、地域の活性化につながっている。  
○ 県外から香南市へUターンする方や高知市からの2段階移住の方が対象となる引越支援事業補助金は、転入時に市民保険課や各支所と連携した案内やアンケートを活用した個別案内の送付を行い、14件の実績があった。  
○ R5年度からは、地域移住サポーターとして、県内初の法人サポーター「ネットヨタ南国株式会社」のいち青空店、が委嘱され、市の移住情報の発信や移住者交流会、お試し滞在住宅利用者への車両無料貸し出し等に協力をいただいている。

関係人口の創出

香南市で働きながら地域の暮らしを体験する「こうなんワーキングホリデー」は、R5年度に引き続き、井上ワイナリー(株)と(株)山北みらいを受入先とした参加者の募集を行い、3人の参加があった。

5年間の総括 (R2年度～R6年度)

総括

数値目標である「人口の社会増減」の目標値は656人に対し、511人であった。  
当市では野市町において宅地開発が進んでおり、市全体では社会増の傾向にある。  
R2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響や物価・資材の高騰等により住宅の建築にも影響が及んだが、その分、R3年度にまとまった転入があった。  
R4年度には、新型コロナウイルス感染症が5類となったことで国内外の移動が再開されたことが影響し、これまで自宅にいながら授業を受けていた大学生や仕事をしていた社会人の転入出や外国人実習生の受入れの再開等により、大きく転入数が増加した。  
R5年度以降の転入出数はコロナ禍以前と大きく変わりはなく、1,200人～1,300人程度で推移しており、かろうじて社会増となっている。  
R7年度以降も、一定宅地開発とそれに伴う新築件数は増加することが見込まれるが、土地は有限であり、宅地開発による転入は近い将来なくなるものと捉えておく必要もある。  
国全体の人口はさらに減少することが見込まれていることから、これまでの様々な取り組みも行いながらも、市民が今後も安心・安全に暮らしていけるまちづくりを進めることが求められていることから、当市の魅力を活用し、選ばれるまちとしていくことや地域や産業の担い手である若者の定着等に向けて取り組んでいく必要がある。

もう1つの数値目標である「県外からの移住者」は、目標値180組に対し165組であった。  
住環境が整備されることで移住者数の増加につながる傾向がある。  
新型コロナウイルス感染症の影響により、対面式のフェアの中止が続いたが、いち早くオンラインによる相談窓口を開設した。  
R6年度は南国市・香南市合同でオンライン移住相談会を開催し、来高しなくても地域の良さを伝えることができた。

R2年度からR6年度にかけて取り組まれた 新規・拡充事業(抜粋)

新型コロナウイルス感染症支援事業は除く

(R2年度)

・ (拡充) 移住者対応のオンライン窓口の設置。

(R3年度)

・ (拡充) 香南市空き家改修事業費等補助金を拡充。  
(182.4万円 185.7千円)  
・ (NEW) 地域おこし協力隊企業等支援事業を開始。

(R4年度)

・ -

(R5年度)

・ (NEW) 新築住宅取得支援事業の制定。  
・ (拡充) 移住定住ガイドブック「こうなんでくらす」の全面改訂。

(R6年度)

・ (拡充) 耐震診断の受診率向上を目的に木造住宅耐震診断士派遣事業の手数料に係る個人負担分(3千円)を無料化  
・ (拡充) 住宅の耐震化促進のため、住宅耐震改修工事費等補助金の補助上限額を100万円から165万円に引き上げ。



### 基本目標3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる人の流れをつくる

基本的方向：（1）人生をトータルでサポートする体制づくり （2）子ども、子育て支援・環境の充実支援

婚姻件数（件）	基準値 (H30)	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	最終
実績値	139	130	106	104	115	105	560
目標値	-	142	145	148	151	153	729
評価（A/B/C/-）	-	B	B	B	B	B	B

  

合計特殊出生率	基準値 (H30)	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	最終
実績値	1.58	1.65	1.53	1.63	1.63	1.56	1.56
目標値	-	1.64	1.66	1.68	1.70	1.72	1.72
評価（A/B/C/-）	-	A	B	B	B	B	B

### R6年度の取り組み内容

婚姻件数（R6年度公表分 … 暦年：R5.1.1～12.31）は、目標値153件に対し、105件であった。コロナ禍以後、105～115件の中で推移しており、大きな減少には至っていないが、婚姻数の減少は出生数の減少に直結することから、個々の価値観を尊重しながら、誰もが望むタイミングで安心して出産・子育てができる環境を整えるため、ライフステージの応じた切れ目のない支援に引き続き取り組む必要がある。合計特殊出生率は、目標値1.72に対し、1.56であった。

#### （1）人生をトータルでサポートする体制づくり

##### ライフステージに応じた切れ目のない支援

住居や引越費用等、結婚に伴う新生活を経済的に支援する結婚新生活支援事業費補助金の活用は、15件の目標に対し25件。広報への掲載や市民保険課でチラシの配布を行うとともに、転入者へのアンケートで転入理由が「結婚」と記載されている方に個別に案内を送付する等、市民の目に届く周知に取り組んできたことで達成した。要支援・要介護認定者であって、自力でのゴミ出しが困難であり、また他者の支援が受けられない高齢者宅の可燃（生）ゴミの回収を行う高齢者可燃ごみ戸別回収事業では70名の利用があった。

##### 若者の出会いの場づくり

- 「よりあい にこ家」による結婚に関する相談窓口事業は、運営団体の事業内容の変更によりR5年度を以て終了。R6年度は、県と連携しながら婚活サポーターの発掘やマッチング登録会等を実施し、婚活へのきかけ作りを実施。
- 市主催の婚活セミナー事業は、これまでの実績を精査し、R5年度末で終了。恋い・めぐりあい応援事業として、一般の団体、又は個人に活用してもらえるよう周知するためチラシを作成し配布。2件の活用相談があり打合せは行っていたが、残念ながら実施には至らなかった。

#### （2）子ども、子育て支援・環境の充実支援

##### 子育てを支える地域の育成

三世交流事業として三世交流風あげ大会と風づくり教室、交流サイクリングを開催した。交流サイクリングでは12人の参加で、風作り教室は市内2カ所で実施し、11人の参加であった。風あげ大会については、予定どおり実施ができ、1,000人の参加があり、世代を超えて地域社会が一緒に楽しめるイベントの開催ができた。また、地域ごとに開催している運動会や駅伝大会の開催支援を行い、地域の活性化を図った。

##### 子育て施策の充実

- 来所等で全ての妊婦に面接し、出産後は地区担当保健師が新生児・乳児家庭へ訪問を行っている。地区担当保健師の訪問と併せて、産後ケア事業を実施することもあり、できるだけタイムリーに相談対応できる体制を整えている。産後ケアや産前産後ヘルパー派遣事業を産後1年までに拡充。産前産後の心身不調予防や育児支援につなげた。
- 総合子育て支援センター「にこなん」及び出張ひろは4箇所の利用者増加を目指し継続的に事業に取り組んでおり、「にこなん」の利用者は10,800人の目標に対し、13,511人（児童6,933人/同伴者6,554人/大人単独利用者24人）と順調に推移している。
- 市HPの子育て情報サイト「香南キッズ（子育て情報サイト）」へのアクセス数は、9,000回の目標に対し12,053回であった。妊娠から就学期までの助成制度や子育て支援制度、子育ての悩み事や困った時の相談先等の子育て関連情報をまとめてインターネット上のサイトに掲載している。
- また、スマートフォン用サイトへつなぐQRコードの設定や「LINE」を活用した市のHPと連動した情報発信ツールの普及を行った。加えて、香南市子育て情報サイト「香南キッズ」のリニューアルを行い、「LINE」登録者への「エプロンだより」と「すこやか通信」のメールマガジンの配信や健診、予防接種、育児学級等の子育て情報をタイムリーに発信することができるようになった。

##### 多様な保育事業・放課後児童クラブの拡充

- 赤岡保育所・香我美おれんじ保育所・夜須こども園において満1歳以上の未就園児を対象に一時預かりを実施している。R4年度以降、保育士不足により一時預かりの受入枠を縮小しているため、利用者数は延べ644人（目標1,300人）となった。【内訳：赤岡103人、香我美おれんじ423人、夜須118人】
- 放課後児童クラブの利用者数は438人（年間平均値/目標450人）で概ね計画どおりに事業を実施。公営児童クラブにおいて、学校のある日の延長保育時間を18時から18時30分に拡充するよう、市内全クラブでのサービスの統一に向けて検討を行った。R7年度より実施。
- また、市内全体で支援員の確保が最重要課題となっており、地域情報誌や新聞求人広告に掲載し、幅広い地域・層に対して周知を図り、人員の確保に努めた。

## 5年間の総括（R2年度～R6年度）

### 総括

5年間の婚姻件数（H31.1.1～R5.12.31）は目標値729件に対し、560件であった。新型コロナウイルス感染症以前の婚姻数は約130件で推移をしてきたが、コロナ禍では、テレワークの普及等、職場環境の変化が生じたことによる「出会いの場の減少」が進んだことや所得の向上が図られない傾向が続いていたこと等から、「一生結婚するつもりのない人の割合」は男女ともにコロナ禍以後上昇傾向にある。また、初婚・再婚問わず、出会いから結婚までの期間は長期化している傾向にあり、若い世代の結婚に対する慎重さが増えていると考えられている。一方で、新たな出会いの場として、アプリやSNS等の活用が普及、定着していることから、それらの活用を含めた周知・広報を行うことも必要と考える。ただし、本県では人口減少とともに、若い世代の流出に歯止めがかかっていない状況であり、出会いの場の創出事業を、市町村毎に取り組むには限界があることから、県域事業として取り組んでもらいたい意向を引き続き県へ伝えていく考えである。

合計特殊出生率は、目標値1.72に対し、1.56であった。合計特殊出生率は、夫婦間の子どもの数ではなく、結婚・未婚関係なく15歳から49歳までの全女性の年齢別出生率を合計した指標である。対象となる女性の数が多くなると、数値は小さくなることから、前年度と比較し下がっていることは、対象となる女性が増えている（流出が抑えられている、または、流入が増えている）と読み解ける部分もあり、一概に「悪くなった」と読み取れるわけではない。この数値は「対象の全女性が産む子どもの数」であることから、婚姻件数の増加につながるが、この数値を活かす重要な部分となるため、引き続き、出会い・結婚・子育て等の人生をトータルでサポートする各事業に取り組んでいく必要がある。

### R2年度からR6年度にかけて取り組まれた新規・拡充事業（抜粋）

#### 新型コロナウイルス感染症支援事業は除く

##### （R2年度）

- （拡充）ファミリーサポートセンターの利用場所を拡大。
- （拡充）放課後児童クラブ（野市小・香我美小）の増築。

##### （R3年度）

- （NEW）高齢者可燃ごみ戸別回収事業の開始。
- （NEW）子どもの遊び場確保事業（のいち動物公園パスポート配付）を開始。
- （拡充）香南キッズサイトおよび子育てガイドブックの改訂。
- （拡充）結婚新生活支援事業の拡充。

##### （R4年度）

- （NEW）自転車用ヘルメット着用推進事業費補助金の創設。
- （NEW）LINEを活用した子育て情報の発信の強化。
- （NEW）公立幼稚園にて長期休業期間における配食サービスを開始。
- （拡充）放課後児童クラブ（佐古小）の増築。
- （拡充）医療機関送迎サービス事業の拡充。

##### （R5年度）

- （NEW）子どもの遊び場確保事業（ヤ・シバパーク駐車場券配付）を開始。（R6年度まで）
- （NEW）公立保育所・幼稚園にて紙おむつ回収を開始。
- （拡充）夜須保育所・幼稚園を統合し、夜須こども園を開園。
- （拡充）結婚新生活支援事業の拡充。（年収要件を400万円未満から500万円未満へ）

##### （R6年度）

- （拡充）香南市第3期子ども・子育て支援計画を策定。



長期休暇時の配食サービス開始



## 基本目標4：地域コミュニティの活性化を図り、安心・安全な地域をつくる

### 基本的方向：（1）協働のまちづくりの推進 （2）災害に強いまちづくり

地域活性化総合補助金 活用自治会数（自治会）	基準値 (H30)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終
実績値	85	84	84	83	83	83	83
目標値	-	90	93	95	95	95	95
評価(A/B/C/-)	-	B	B	B	B	B	B
香南市みんなで備える防災 総合補助金活用組織数（組織）	基準値 (H30)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終
実績値	91	99	95	102	102	102	102
目標値	-	115	115	117	117	117	117
評価(A/B/C/-)	-	B	B	B	B	B	B

## R6年度の取り組み内容

地域活性化総合補助金活用自治会件数は、目標値95に対し83と前年同数となっている。  
野市町は自治会の設立ができている地域が存在しており、活用件数が少ないため、地域のつながりの強化に向けた取り組みが急務である。

香南市みんなで備える防災総合補助金活用組織数は、目標値117組織に対し102組織に留まっている。  
地域のリーダー不足や住民の高齢化、防災に対する認識不足に加え、新興住宅地では、横のつながりを作る場所から取り組み始める必要があり、時間を要しているが、防災においては、市民、地域、行政の役割を明確にし、「自助・共助」を基盤とした防災・減災のまちづくりを推進し、新規組織の設立や既設組織の活性化を図る必要がある。

### （1）協働のまちづくりの推進

#### 住民との情報交換

本年度も行政主催（市民懇談会「香南トーク」）と地域主催（ふらっと座談会）の2種類で実施した。  
市主催分は、5町5カ所で開催し市民108人が参加。当日参加できなかった方も懇談会を視聴できるように香南ケーブルテレビで放送をR6.5.16～5.31日まで行った。  
地区主催分については4カ所（深洲、つきみ野、宮の瀬、赤岡町、夜須町）で開催し市民52人が参加。  
（野市：つきみ野、宮の瀬 6人、深洲 18人、赤岡町まちづくり協議会 12人、夜須町まちづくり協議会 14人）  
住民が学べる機会を増やすことを目的として、自治会や協議会、各種団体等を対象に市職員が講師となる香南市出前講座の参加者は25団体 337人であり、前年度より10団体 117人増加した。  
ただし、住民との情報交換（香南トーク+ふらっと座談会+出前講座参加者数）の実績は、目標値1,060人に対し497人であった。

#### 地域活動の支援体制強化

自治会結成率については、結成率100.0%の目標に対し92.6%（88組織/95組織）。  
R6年度は、新たに設立された自治会数は0であったが、R7年度には3カ所の自治会設立が予定されている。  
自治会等の役員を対象にした「香南市まちづくりセミナー2024 東日本大震災×現場の真実 ～人の口から人の心へ伝える～」をR6.10.2に開催。香我美支所 参加者 169人（会場104人・YouTubeによる参加65人）  
南海トラフ地震等に備え、地域でつながるための大切さを個人が意識し、自治会・協議会が取り組めるまちづくりについて学んだ。公演の内容は、香南ケーブルテレビの「まるごとイベント」にて放送。また、放送をDVDにまとめ、貸し出しも行った。（貸出 3件）

### （1）災害に強いまちづくり

#### 耐震化の促進、災害時備蓄品整備の充実

耐震診断については、診断件数60件の目標に対し134件。  
R6年度は、能登半島地震や南海トラフ地震臨時情報等、度重なる地震等の影響もあり件数は増加した。  
引き続き周知を図り、継続して事業を実施する必要がある。  
耐震診断後に耐震改修に至っていない家屋を中心に、住宅耐震化に関わる補助金制度の周知や耐震改修工事の費用について、過去のデータを掲載したダイレクトメールを所有者や管理者に送付した。（98通）  
○ 備蓄（食料・水・毛布）については、食料、水等の本年度分整備は計画どおり整備している。

#### 自主防災組織の設立・活性化

○ 自主防災組織の結成率は100.0%の目標に対し90.3%（14,013世帯（自主防加入世帯数）/15,522世帯（全世帯数））。  
広く市民の方が参加できる防災・減災に関する講演会、補助事業の案内を実施。  
県主催のリーダー育成研修、防災士研修、シンポジウム等への各種参加案内を通知。

#### 災害時における地域の支え合いづくり

○ 夜須こども園・野市東防災コミュニティセンターの避難所運営マニュアルを新たに作成。  
また、既存避難所運営マニュアル（25箇所）を改訂。  
避難所運営マニュアルを基に避難所運営訓練を実施。

#### 消防・防災対策の強化

○ 県下一斉の避難訓練に合わせ、市の総合防災訓練をR6.11.10に実施。  
本年度は夜須中学校グラウンドをメイン会場に防災訓練を実施し、市内全域で避難訓練や各自主防災組織単位で防災訓練を実施。  
防災訓練参加者5,200人の目標に対し、3,837人の参加であった。

## 5年間の総括（R2年度～R6年度）

### 総括

当市は、10年・20年先における地域社会を見据え、住民交流を通してコミュニケーションを深め、多様化する地域課題について、地域と行政が課題解決に向けて取り組む「協働のまちづくり」の推進を目的に自治会の結成を推進しており、95自治会の結成を目指している。

（赤岡町 9、香我美町 27、野市町 39、夜須町11、吉川町9）。

R6年度末の結成数は88自治会（赤岡町 9、香我美町 27、野市町 32、夜須町11、吉川町9）となっており、地域活性化総合補助金活用自治会は83自治会となっている。

野市町では、近年、民間事業者による宅地開発が進み、新しい住宅団地が増加傾向にあるが、共働き世帯等が多く、近隣の世帯との交流がないこと等から、自治会の必要性を感じない世帯も増えてきている。

一方で、人口が減少している中山間地域等では、地域間で、自治会の結成率は高いものの、新型コロナウイルス感染症や高齢化等の影響により、これまで取り組まれてきた地域イベント等の開催ができない状況になる等、担い手不足の影響が生じており、地域ごとの課題も変化してきている。

以上のことから、市では、これまでの取り組みを継続しつつも、若い世代のU・Iターン等の移住促進や空き家対策と連動した住居の確保、移住者を受け入れる地域の体制の強化等を進め、地域の新たな担い手（人）の流れを生み出していくことやSNS等のデジタルを活用した「必要な時につながり、頼り合える関係性」を築くための支援等を進め、市民が求める新たなコミュニティの在り方の実現につなげていく。

近年、初の南海トラフ地震臨時情報発表、南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率80%程度への引上げ、線状降水帯の増加、台風や熱帯低気圧の活発化等により、いつ災害が起こっても不思議ではない状況である。

そのため、市では広く市民の方が参加できる防災・減災に関する講演会の開催や各種防災訓練の実施、自主防災組織活性化のため地域へ啓発、避難タワーの整備、避難所運営マニュアルの策定、食料・水・毛布等の備蓄を進めた。

今後も、市民、地域、行政の役割を明確にし、「自助・共助」を基盤とした防災・減災のまちづくりを推進し、多角的な視点から市民の意識向上や環境整備に取り組み、「いざという時に支え合える地域力」をさらに強化していく。

## R2年度からR6年度にかけて取り組まれた 新規・拡充事業（抜粋）

### 新型コロナウイルス感染症支援事業は除く

（R2年度）

・（**拡充**）住民主体の移動支援の創出を支援。（地域おこし協力隊の雇用）

（R3年度）

・（**NEW**）市内外国人に向けたアンケートの実施。  
・（**NEW**）高齢者の移動支援コーディネーター（地域おこし協力隊）を雇用し、高齢者の外出支援の受け皿づくりに着手。

（R4年度）

・（**NEW**）香南市にじいのまち宣言 / 香南市パートナーシップ宣誓制度  
・（**NEW**）岸本地区津波避難タワー整備事業に着手（R5年度完成）  
・（**NEW**）エアータント整備事業  
・（**NEW**）こうなんにほんごサロンの開設

（R5年度）

・（**NEW**）香南市事前復興まちづくり計画策定事業に着手。  
・（**拡充**）香南市みんなで備える総合防災補助金の補助対象（水・食糧や資機材等）を拡充。

（R6年度）

・（**NEW**）南海トラフ地震対策セミナーの開催

基本目標4：地域コミュニティの活性化を図り、安心・安全な地域をつくる

基本的方向：（3）交流人口の拡大  
R6年度の取り組み内容

(小さな拠点)  
岸本地区集落活動センター ... 地域内外の交流人口の拡大を図るためのイベントや教室事業の実施。  
西川地区集落活動センター ... 西川花祭り終了に伴う園内作業や手続を実施。7年度に向けて地域で楽しめる継続事業の見直し等を行った。

(地域団体の活動促進、支援充実)  
「ふれあいカフェ」を通して、地域の高齢者の見守りのサロン活動や今年度で18回を迎えるかがみ花フェスタ「チュリップまつり」を通しての交流人口増加を目指し事業を継続した。

(高等学校・高知大学との連携)  
岸本地区集落活動センター ... 高知県立大学のフィールドワーク（集落活動センターの事業を通じて「まちづくり」の意義について考える）や地域のアンケート調査を実施。  
県立山田高校に通う香南市の1年生による「まちづくり提言」が実施され、ものべがわエリア観光博「ものべすと」に関連したミッションに対する5件の提言があった。  
また、高知工業高等専門学校の地域協働演習において、あかおか駅の模型列車復活、天然色市場を盛り上げようといった6グループが香南市に関連する課題に取り組んだ。

(3)交流人口拡大

集落活動センター(小さな拠点整備)		
○ 西川地区集落活動センターでは2つの部会(夢部会・集う部会)を編成し、いつまでも地区住民が安心して暮らしている仕組みづくりのため各分野において協議を行い、取り組みを進めている。 新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が停滞することがないよう、イベント開催に向け、集落活動センター各部会の情報共有を図り、連携を強化した取り組みを行った。		
夢部会	ジャム班	連携店やイベントで販売するジャム作りに取り組む。 12月県立大学健康栄養学部学生による山北ミカンのジャムづくりを体験。
	サロン班	8月に「お菓子づくり」を実施。
集う部会		西川花公園が閉園し土地の返還を行った。 7年度以降は、一部の土地を借りて西川花畑としてフジバカマやコスモス、アジサイ等を植え、継続事業のアサギマダラの観察会を行う。活動としては草刈り・草引きを定期的に行った。

○ 岸本地区集落活動センター推進協議会を設立(R2.6.17)  
4つの部会(ふれあいカフェ部・かがみ花フェスタ部・まちかつ部・農園部)からスタートし、限られたメンバーの中で、更なる交流人口の拡大を図るため、事業内容の選択と周知、部の再編を行い取組みを進めた。

ふれあいカフェ部	高齢者見守り活動や交流、健康促進を兼ねたサロン活動に取り組んだ。
かがみ花フェスタ部	岸本地区最大イベント「かがみ花フェスタ チュリップまつり」の開催。 会場に隣接した土地を公園整備し、花フェスタ会場と一体的な通年活用に向けた基盤づくりに取り組んだ。
いえ・とち活用部	公園整備をした土地を活用し、地域内外の方が集い、交流できるプチイベント(ジャズのタバ、セタまつり、踊りと三味線と月明かりの観月会、新春餅つき)などを開催した。 活動拠点の「かっぱや」を活用した地域内外の交流人口の拡大を図るため、管理と活用を前集落支援員に委託し、個人事業としての古民家カフェとして通年活用や各種教室の会場として活用し交流人口の拡大を図った。また、空き家の情報を提供し活用への取り組みを行った。
農園部	まちかつ部からスタートした教室事業を更に発展させるため、事業を推進するための部を新設し、手狭となった教室開催場所の拡大等を模索しながら、事業と交流人口の拡大を図った。

○ イベントの開催 ... 「第18回かがみ花フェスタチュリップまつり」：R7.3.8～4.13(11,224名)

地域団体の活動促進、支援充実

○ 市民主役のまちづくり支援事業費補助金を活用し、地域活動団体の育成に向けた取り組みを実施。  
R6年度は、一般2団体より相談があったが申請には至らなかった。  
また、市内の学校にも呼びかけを行ったが、こちらも申請には至らなかった。

高等学校・高知大学との連携

○ 高知県知事大学実習 の受け入れを2日間にわたって行い、フィールドワークやふれあいカフェ、まちづくり懇談会への参加とワークショップ等を実施。  
○ 高知県立山田高等学校1年生が地域課題研究学習で取り組む「高校生まちづくり提言」をR7.2.5に開催。  
未来を担う高校生たちが、「物部川エリアでの観光博覧会を活かした「香南市観光モデルコースの作成」、「イベントの自由企画」、「グッズ開発」の3つのテーマから選択して、博覧会に合わせて香南市を盛り上げるにはどういったことができるかを市長、観光関係事業者へアイデア提言を行った。  
○ 高知工業高等専門学校の地域協働演習において、6グループが香南市に関連する課題に取り組んだ。

5年間の総括（R2年度～R6年度）

総括

小さな拠点整備

当市の集落活動センターは2か所。(香我美町西川地区・岸本地区)  
西川地区では、毎年3月に「西川花祭り」の開催を行ってきた。  
毎年バージョンアップを繰り返したことで認知度が向上し、県下有数の花公園として人気を得たが、運営に携わる地域の方々の高齢化や予想を上回る来客者への対応が負担となり、R5年度末の開催を以て、残念ながら花祭りの開催は終了した。  
今後は、いつまでも安心して西川地区で暮らしていける仕組みづくりに向け取り組みを進めていく。  
岸本地区では、高齢化や人手不足、次世代リーダー育成等の課題解決に向け、R2年度に県下60カ所目の集落活動センターを開所し、高齢者見守り活動や健康促進を兼ねたサロン活動(ふれあいカフェ)や岸本地区最大イベント「かがみ花フェスタチュリップまつり」会場の通年活用できる仕組みと組織化を進め、収益と交流人口の増加を図ってきた。  
また、地域の活動拠点とて、空き家を改修した「かっぱや」をR元年度にオープンし、空き家の活用と地域の活性化、交流人口の増加を目指し取り組みを進めている。

地域団体の活動の促進、支援の充実

新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、事業が中止となった時期もあったが、R4年度からは、市民が主役のまちづくり支援事業費補助金を活用した「香南市産のシイラを活用した新たなグルメ開発」や「土佐風のデザインコンペ」、「四国フレスコボール協会による体験会」の実施等が行われ、地域団体の活動が再開されている。  
R6年度は、複数の団体から問合せがあったが申請には至らなかった。  
また、市内の学校にも呼びかけを行ったが、申請に至らなかった。  
今後もHP等で周知を行い、補助金を活用していただけるよう呼びかけていく。

高等学校・高知大学との連携

県立山田高校に通う香南市の1年生による「まちづくり提言」が毎年開催され、未来を担う若者の意見をいただくことができた。  
R6年度においては、高知工業高等専門学校が地域協働演習で香南市に関連する課題に取り組む、あかおか駅の模型列車の復活等、新たな連携も生まれた。

R2年度からR6年度にかけて取り組まれた 新規・拡充事業(抜粋)

新型コロナウイルス感染症支援事業は除く

- (R2年度)
  - ・ (NEW) 岸本地区集落活動センター設立。
- (R3年度)
  - ・ (NEW) かがみ花フェスタひまわりまつりの開催(岸本地区集落活動センター)
  - ・ (拡充) 岸本地区集落活動センターによる特産品開発の着手。
- (R4年度)
  - ・ (拡充) 市民主役のまちづくり支援事業費補助金の拡充。(学生の活用に限り補助率10/10へ)
  - ・ (拡充) 地域の景観維持と農産物の生産を目的に、耕作放棄地において、サツマイモの栽培を行い、イベント等で焼き芋や芋天、芋ペースト等の加工に活用。(岸本地区集落活動センター)
- (R5年度)
  - ・ (NEW) 連続テレビ小説「らんまん」の放映に合わせた周遊花めぐりバスの運行を実施。
  - ・ (拡充) 集落活動センター推進事業費補助金を活用し、地域住民の交流やコミュニティ活動の活性化等の増加を図るため、「かっぱや」の厨房整備工事を実施。(岸本)
  - ・ (拡充) 芋ペーストのパッケージ作成。
- (R6年度)
  - ・ (拡充) 集落活動センター推進事業費補助金を活用し、耕作放棄地を活用した農園及び駐車場に自動散水できる設備を整え、散水作業の効率化や土埃対策を実施。  
また、「かっぱや」の付属棟取り壊しによる防犯及び景観対策としてフェンスを整備。  
・ (拡充) うえるかむ広場の月1回以上の活用地域の方に重点を置き「集える場所」づくりを実施。  
「気軽に参加できる雰囲気づくり」をコンセプトに、集活の活動に地域の方が興味を持って賛同し参加してもらえることを目的に開催。